

News Release

平成30年11月22日
 独立行政法人製品評価技術基盤機構
 N I T E (ナ イ ト)
 東 北 支 所

暖房器具の事故により5年間で107名死亡 ～誤使用・不注意による火災を防ぎましょう～ (東北版資料)

1. 事故の発生状況

2013年度から2017年度の5年間にNITE(ナイト)に通知された製品事故情報^{※1}では、暖房器具^{※2}の事故は1,064件^{※3}あり、うち死亡事故は96件(107名)となっています。

東北地方6県(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)では5年間に59件の事故が通知されており、死亡事故が4件(5名)、重傷事故が2件、軽傷事故が9件、拡大被害に至った事故は27件発生しています。

表1 暖房器具の事故の県別の年度別事故発生件数

発生年度 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2013年度	2	2	4	1	1	1	11
2014年度	0	1	3	3	1	3	11
2015年度	3	1	5	5	1	3	18
2016年度	0	1	3	2	0	2	8
2017年度	2	0	2	3	2	2	11
合 計	7	5	17	14	5	11	59

表2 暖房器具の事故の県別の被害状況別事故発生件数

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
死亡	1	0	1	1	0	1	4
重傷	0	0	1	1	0	0	2
軽傷	0	1	2	2	2	2	9
拡大被害	2	1	8	7	3	6	27
製品破損	4	3	5	3	0	2	17
被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合 計	7	5	17	14	5	11	59

表3 暖房器具の事故の県別の事故原因区分別発生件数

原因区分		発生県						合計
		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの	1	0	7	0	2	2	12
	B: 製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	1	0	0	1
	C: 経年劣化によるもの	0	0	1	0	0	0	1
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	1	2	1	2	0	1	7
い事故 製品に起因しな	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	E: 誤使用や不注意によるもの	2	1	1	3	1	3	11
	F: その他製品に起因しないもの	0	1	2	0	0	2	5
G1、G2: 原因不明のもの		1	0	3	5	1	3	13
H: 調査中のもの		2	1	2	3	1	0	9
合 計		7	5	17	14	5	11	59

- (※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。
- (※2) 本資料で対象とする製品は下記を参照
- (※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。



※エアコンは夏場に事故が多いため、本件からは除外しています。

2. 主な事故事例

○2017年11月15日(福島県、80代女性、拡大被害)

事故内容:電気ストーブを使用中、当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。

事故原因:当該製品の強弱切替え用に使用されているダイオードが不良品であったことにより、ダイオードが異常発熱し、出火したものと考えられる。

事故の再発防止を図るため、2016年にホームページへの情報掲載及び新聞社告を行うとともに、販売店への協力要請を行い、対象製品について無償点検及び修理を実施している。

○2017年1月25日(秋田県、80代女性、拡大被害)

事故内容:石油ストーブの給油タンクを引き抜いたところ、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

事故原因:当該製品のカートリッジタンクの蓋(口金キャップ)が閉まったと誤認し、カートリッジタンクを出し入れする際に蓋が外れ、漏れた灯油に引火し、火災に至ったものと考えられる。

○2016年3月12日(青森県、90代女性、死亡事故)

事故内容:使用中の石油ストーブ付近から出火して、住宅を全焼し、家人2人が死亡した。

事故原因:石油ストーブの上方に干していた洗濯物が、ストーブの上に落下して火災に至ったものと推定される。

○2014年12月25日(山形県、60代男性、軽傷事故)

事故内容:石油ストーブの給油タンクを引き抜いたところ、口金が外れて灯油がこぼれ、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が軽傷を負った。

事故原因:当該製品の給油タンクの口金を、前回給油時に確実に締めずに本体へセットしたため、給油タンクを引き抜いた際に口金が外れ、給油タンク内に残っていた灯油が本体に掛かり、燃焼筒や天板の余熱により出火したものと推定される。

○2013年5月(宮城県、新生児、重傷事故)

事故内容:電気蓄熱式湯たんぽを使用中、当該製品が破れ、新生児が火傷を負った。

事故原因:当該製品の製造時において、PVCシートの圧着不良があったため、使用時に袋が破れて高温の内容物が流出し、火傷を負ったものと推定される。

3. 暖房器具の事故の実験映像について

特定保守製品の事故の実験映像に関しまして、写真及びムービーをご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

以上

【編集人のつぶやき】

11月22日は二十四節気の「小雪」
暖房器具が活躍する季節になってきました！

東北ではストーブを使う時期に事故が増える傾向があります。
お年寄りによる石油ストーブへの給油、室内での洗濯物の扱い等、特に注意
が必要です。注意事項を守って事故を防ぎ、師走を迎えましょう。

リコールされた製品かどうかの確認・注意も忘れずにね！！

(本件に関する問い合わせ先)

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

ナイト
独立行政法人製品評価技術基盤機構(略称:NITE)
東北支所 業務課

担当:菊地(きくち)、齋藤(さいとう)、福井(ふくい)

電話:022-256-6423

E-mail:jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE
ホームページ

YouTube
公式チャンネル

Twitter
公式アカウント

